



連盟創立五十周年記念 令和七年度 総会及び俳句大会 高野ムツオ先生の講演を聴く



(挨拶の中坪達哉会長)

連盟創立五十周年記念の令和七年度総会及び俳句大会が、木々の緑が目映い六月七日(土)午後一時より北日本新聞ホールに於いて百三十七名の参加を得、盛大に開催された。森川敬三幹事司会のもと中坪達哉会長は、初代会長吉沢卯一氏はじめ、歴代会長黒田晩穂氏、福永鳴風氏、長沼紫紅氏の功績を讃えながら五十周年記念大会を迎えられたことに感謝し、この五十年で日本の俳句が世界の俳句として、我々の想像を超えるスピードで世界各国に広がった。英語俳句も定

着しており、世界中の人々が日本の俳句を学ぼうとしている」と挨拶。引き続き「荒木かづを幹事が「五十年の歩み」をプロジェクトで紹介。その後、合同句集第一集から四十九集まで連続して投稿してきた会員九人を功労者として表彰した。(受賞者の氏名と写真は別掲)

総会の議長に岡田康裕理事を選出し中島平太事務局長が令和六年度の事業報告、収支決算報告を行い、菅野桂子監事が監査結果を報告し、これらを承認。さらに、令和七年度事業計画案、収支予算案を提案し、原案通り拍手で承認された。又、任期満了に伴う役員改選にあたり、中坪会長から現役員を再選した上で、片桐久恵、河内ゆう子、中尾三久の三氏の理事の退任また、大久保置箔監事の退任に伴い、岡本美美、田上眞知子両氏が理事、中田広美氏が監事に新たに就任することが承認され、全ての議案は可決し総会は滞りなく終了する。

続いて現代俳句協会会長、「小熊座」



主幸、現代詩歌文学館館長高野ムツオ先生の記念講演に移る。演題は「俳句と風土」で、師事した「小熊座」主宰佐藤鬼房の九つの句集から抜粋された句を中心に、「風土に培われた心を詠むことが、本来の俳句の時代にもある風土というものを見つめ直してほしい」などと述べられた。(講演要旨は別掲)

小顔後、俳句大会に移り既に出句されていた五百二十句(二百六十名)について講師及び連盟役員によって選考された特選句並びに入賞句を森純子幹事、野中多佳子幹事が披講し、表彰式に移る。

まず講師の高野ムツオ先生より丁寧なる講評を戴く。続いて楠浩介北日本新聞社編集局生活文化部長から、北日本新聞社賞を又、中坪達哉会長から連盟賞がそれぞれに贈呈された。(成績は別掲)

浅野義信副会長が閉会の辞を述べ、総会、俳句大会は盛会裡に終了した。

令和七年七月一日発行
富山市安住町二一四
〒930-0094 電話 ☎六四四三三四三
振替番号 金沢 五一一七一〇八
北日本新聞社編集局内
富山県俳句連盟



会場を県民会館八階バンケットホールに移し、午後五時より創立五十周年記念祝賀会を七十名の参加を得開催。寺田嶺子連盟会員の

司会のもと、中坪達哉会長が挨拶。続いて講師の高野ムツオ先生、来賓の伊東眞富山県芸術文化協会会長、蒲地誠北日本新聞社代表取締役社長(写真)より祝辞を賜る。続いて祝電を披露し、室尚志北日本新聞社常務取締役編集局長の乾杯の御発声をもって祝宴に入る。

アトラクションとして、剣舞「本能寺」が坂田直彦幹事の剣舞、伴吟析原百合子連盟会員の両氏により、次いで津軽三味線演奏「津軽幻想曲」が紫風会会主泉此風、由風、田中麻紗子の三氏により演じられ、参加者を魅了した。その後歓談に移り、大いに盛会。最後に、楠浩介北日本新聞社編集局生活文化部長が会の発展を祈念し万歳三唱し、終宴となった。

◇功労者表彰
石工 冬青、大久保置箔、久崎富美子、小坂優美子、坂田 直彦、坂田 紀枝、高村 寿山、宮西 昌子、八尾とおる

◇祝賀会御芳志
北日本新聞社代表取締役社長 蒲地 誠様
金 三万円
芸術文化協会会長 伊東 眞様
ビール券大びん一ダース
石工 冬青様
金 二万円
匿名 金一万円、匿名 金一万円

五十周年記念俳句大会作品集

◇高野 ムツオ先生 特選句

一処決めたるやうに残る雪
磐座の神と睦びし春の雷
太陽を包む形にチューリップ
雪代の音の高まる忘れ歟
音もなく水騒がせて蝌蚪生る

◇連盟選者特選句

義 信選 橋すぢは工場の町花大根
かづを選 花束や散らばつてゆく卒業子
冬 青選 寝たきりの妻には春のわらべ唄
可津志選 田螺鳴く水路のつなぐ散居村
置 箔選 施設へと移り空家に桜咲く
こうき選 寝たきりの妻には春のわらべ唄
喜 子選 今日の日をねぎらうように春夕焼
康 裕選 田螺鳴く水路のつなぐ散居村
城 子選 三度目は顔向けて待つ遠初音
ゆう子選 人事移動紙面いつばい春動く
弥 生選 過疎村や男の子の生れてこのぼり
秀 子選 組むも酒仕舞ふも酒や山車祭
美智子選 金めばる能登の夕日の色持てり
洋 彦選 身丈より大きい返事卒園児
直 子選 老いの爪伸びるが速し山笑ふ
一 子選 ネットタイにまたも手のゆく新教師
重 一選 お互いさま転ばれんなに山笑ふ
桂 子選 水温む老いては居れぬ眉ひかむ
恵 子選 国訛ぼろりと主治医あたたかし
昭 夫選 茶毘を待つ不思議な時間鳥雲に
勇 選 鱈カマの岩のやうなる焼かれやう
せつ子選 花吹雪傾いた墓を撫でもして
寿 山選 風光る帰つてこよと稚魚放つ
三 久選 五箇山の春に紛れて鳥の声
平 太選 草の餅はたはた百寿恋話
達 哉選 いつしかに実家と呼ばれ花は葉に
睦 子選 セーターから顔出す今日といふ未来

◇入賞句

天位 11点 廃校は古城のごとし山桜
地位 9点 身丈より大きい返事卒園児
人位 8点(特選2) 田螺鳴く水路のつなぐ散居村
四位 8点(特選1) いつしかに実家と呼ばれ花は葉に
五位 7点 折紙もりハビリのうち春うらら
春時雨沖の船つ可動橋
金めばる能登の夕日の色持てり
六位 6点 字余りの句を置き去りに雁帰る
昭和より百年流れ過疎の春
揚雲雀空の定点観測所
その中の丸刈りは吾子卒業歌
寝たきりの妻には春のわらべ唄
草の餅はたはた百寿恋話
聞きとれぬ防災無線春疾風
七位 5点 句座に活け厨に活けて桃の花
ほたるいか路地は昭和のままありて
十歳のあの日あの時原爆忌
重さうにしあわせさうに苗木買ふ
アネモネや明るく歳を重ねたし
目刺一連吊るして海の風をきく
あら汁の頬骨すすする大寒波

美知子選 花に酔ふ夫の知らざる月日過ぐ
多佳子選 海に向き海を背にして種を蒔く
真智子選 字余りの句を置き去りに雁帰る
幸 子選 アネモネや明るく歳を重ねたし
あつ子選 春昼の鹽に躍る嬰の四肢
千鶴子選 廃線の先にふるさと木の芽風
純 子選 水見捕れの目刺は海の色のまま
敬 三選 廃線の先にふるさと木の芽風
稔 選 うららかにマトリョーシカの並び順
とおる選 生きて行く術を学びて卒業す

馬瀬 和子
石田 英子
飛田雪豹子
金山美恵子
細野 千里
青木 章子
北川 秀子
青木 章子
池田 衣舞
荒木かづを
高橋せつ子
跡治 順子
中島 平太
飯干ゆかり
大坪きよ子
福島やす子
石黒 順子
飛田雪豹子
船平 晩秋
高木 昭夫
古小路憲子
若土 白羊
田中 憲子
有川 寛

立山を胸に抱き寄せ袋掛
べんきようすききゅうしよくがすぎ一年生
三度目は顔向けて待つ遠初音
橋すぢは工場の町花大根
花冷えの石一枚の「長寿橋」
校門を出て半世紀桜東風
八位 4点(特選1)
鱈カマの岩のやうなる焼かれやう
花に酔ふ夫の知らざる月日過ぐ
水温む老いては居れぬ眉ひかむ
人事異動紙面いつばい春動く

新村美那子
脇坂琉美子
大久保置箔
高野 弘深
三箇 清美
細野 周八
四宮 一子
馬瀬 和子
浅尾 京子
堀 禮子

富山県現代俳句協会

秋季吟行俳句大会(予告)

日 時 九月二十八日(日) 午前10時受付
会 場 滑川市民交流プラザ3階 多目的ホール
吟行地 ほたるいかミュージアム、宿場町回廊めぐり、芭蕉句碑、海遠望等
参加費 二句 千円(当日会場受付時に支払い)

俳人協会富山県支部 俳句大会(予告)

協会員以外の方のご参加も歓迎いたします。
日 時 九月二十三日(火・秋分の日) 午後一時
会 場 富山電気ビル四階光の間
講 師 小島 健 先生
俳人協会副会長、「河」同人会長

富山県芸術祭主催

富山県民芸術文化祭参加

富山県俳句連盟秋季俳句大会(予告)

講師 歌人、前富山県芸術文化協会会長 木下 晶 先生
日 時 十月四日(土) 午後一時
会 場 北日本新聞ホール

講演要旨



俳句と風土

— 佐藤鬼房の場合 —

現代俳句協会会長、「小熊座」主宰
日本現代詩歌文学館館長

高野ムツオ先生

佐藤鬼房は風土に培われた心を詠うことが本来の俳句であると言っています。具体的に鬼房の句を見ていきます。

・むささびの夜語りの父わが胸に

夜行性のむささびと幼い時の夜語りの父を詠っています。これが、鬼房の心の形を表しています。その土地、気候などと分け離すことができないように結びついています。

・夏草に糞まるここに家たてんか

結婚した時の句。芭蕉は平泉を訪れた時「夏草や兵どもが夢の跡」と詠みました。あの夏草との共通点は、たくましく生い茂るという点です。鬼房は夏草の所で排泄しながら、ここでずっと暮らすと言っています。

・かまきりの貧しき天衣ひろげたり

かまきりが広げた翅が天人の羽衣だと言っていますが、貧しくという一語によってかまきりがかまきりでなくなり、鬼房自身になってきます。貧しき天衣を広げ、必死に生きていくという反逆精神が込められています。

・切株があり愚直の斧があり

季語はありません。切株があるの後に愚直という語句が続いています。ギク

ジャクしたイメージがあります。対比されているのは切株と斧です。実際に断ち切ったのは人間ですが、矛盾した存在そのものが人間の在り方だと言っています。

・潮くみの耳とがらせて断乎たり

潮くみの仕事は、辛い重労働です。そういう労働に携わる貧しい人たちですが、耳をとがらせて生きていますよという生の証を詠っています。

・毛皮はぐ日中桜満開に

鬼房が関わってくる人間の多くは弱者で辛い労働に携わる人、この世から外れてしまふような人たちです。毛皮剥ぎの職人もそうです。昼日中桜が満開の時桜を愛で、行く春を惜しむという世界との対比です。

・縄とびの寒暮いたみし馬車通る

風土と俳句の関りを示した初期の典型的な句です。作られた場所は塩釜です。漁港があり魚を積んだ臭い馬車がやってくる。その中で子供たちが縄飛びをしている。「縄とび」と「寒暮」を直接結びつけています。これは力技で、ダイナミックなイメージが生まれています。

・馬の目に雪ふり湾をひたぬらす

鬼房一家が住んでいた岩泉は馬の産地

です。馬の目に雪が降り、その雪が湾を濡らした。「馬の目に雪ふり」からいきなり湾をひきます。小さなものから大きなものへ、「湾をひたぬらす」が、この馬の生命力を暗示しています。

・夜蛙や沿線に子を産して住む

自然だけが風土ではなく、人間が生きている場所全てが風土です。「沿線に子を産して」いる沿線も風土です。俺はここに子供をなしてずっと住んでいくという夜蛙の決意をそのまま句にしたわけですね。夜蛙という季語が効いています。

・焼子酔ひ馬車ひきが酔ひ糞ふる

焼子というのは、炭焼きの従事者で山を所有していない人が携わっています。炭焼きも実は毛皮を剥ぐ人と似た境遇にあります。炭焼きの人が酔っぱらう、馬車引きが酔っぱらう。それを讃えるように糞が降っているという情景です。

・蝦夷の裔にて木枯をふりかぶる

私は「蝦夷」を「えみし」と読みたいと思います。蝦夷というのは、東北地方特に宮城県、岩手県、青森県、秋田県の一部に住んでいた人の蔑称です。「蝦夷」と虐げられてきた末裔だけでなく、木枯をふりかぶりながらここで生きていくと言っています。

自分の生があるのは、そういうルーツがあり、時代を超えた地の流れがあるからだと言っています。こうしたことを意識しながら俳句を作ることが、風土を自分の言葉として生かしていくことに繋がるのではと思っています。

・陰に生る麦尊けれ青山河

この俳句は、鬼房自身がもうこの句が

できたから、俺は死んでもよいとまで言い切った自慢の俳句です。まだ六十歳になる前でした。古事記とか日本書紀などにある話を踏まえています。

陰になる山影など、日の当たらない場所に生える麦だからこそ尊いと言っています。古事記に、「陰に生る麦」に関する大気都比売神（オオゲツヒメ）という女性の神様とスサノオノミコトの話があります。「ほと陰部」から麦が生えてきたという神話を踏まえています。そういう視点で捉えようと、青山河が女体その隠れたところから、生えだした麦が最も命を伝えてくれた。このように現代と古代と、また未来に向かうそういう時間を超えた俳句の世界を作ろうとしたのが、佐藤鬼房の俳句です。陸奥の人にとっては、麦は大事な食料だったので。これもまた陸奥の人の生き方です。制圧される側、制圧する側、その中間人間は自分の生だけを大事にして生きているということまで考えさせられる俳句です。

ここが佐藤鬼房の俳句の原点だし、これから私たちが風土ということを考えながら俳句を作るといっても、風土から私たちが逃れ難く生きていくわけですから、新幹線等も現代の風土の一つです。私たちを生かしているもの全てが風土なんです。こうしたことをもう一回見詰め直し、自分なりに、さらにいいものを作ろうと言いつつ聞かせながら、私は私なりの風土の俳句を作っていきたいなというお話をし終わりたと思います。ご清聴ありがとうございました。（文責 高田 勇）

令和6年度決算報告書

(単位:円)

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenses), including items like '繰越金' (Carry-over), '会費' (Fees), '助成金' (Subsidies), and '雑収入' (Miscellaneous income).

(収支差額(収入合計-支出合計) 1,437,023円 は次年度へ繰越)

令和7年度予算計画書

(単位:円)

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenses) for the next fiscal year, including '繰越金' (Carry-over), '会費' (Fees), '助成金' (Subsidies), and '雑収入' (Miscellaneous income).

◆消 息
○富山県現代俳句協会は、三月二十三日(日)、令和七年度定期総会を富山県教育文化会館で開催した。その後春季俳句大会が行われた。...

編集後記
連盟会報100号をここにお届け致します。次回101号は令和七年十二月一日発行予定です。...

第44回とやま文学賞 作品募集
俳句 未発表句 二十句
(手書きの場合は四百字詰原稿用紙)

富山県俳句連盟 夏季吟行会(予定)
日時 七月二十一日(月・海の日)
午後一時より
桜クリエ